

施策評価調書〔途中評価(平成30年度実施)〕

長崎県総合計画における位置付け		作成年月日	平成30年10月26日	長崎県総合計画記載ページ	26	P
将来像	交流でにぎわう長崎県	施策主管所属	×××部△△△課			
基本戦略名	1 交流を生み出し活力を取り込む	課(室)長名	課長 ●●●●			
施策名	(3) 海外活力の取り込み	施策関係所属(部局名課名)	■部□口課、▲部◇○課			

1 施策の内容

総合計画チャレンジ2020から、取組の概要とめざす姿を引用しています。

【取組の概要】	【めざす姿】
海外の需要を取り込むため、これまでに培った歴史や文化、人のつながりを活かしながら、新たな海外拠点づくりや外国人観光客の誘致など、国や地域ごとの特性に応じた戦略的な取組を進めます。	アジアをはじめとする海外活力が取り込まれ、県内経済活動が活発化している。

2 施策の進捗状況と評価

施策の進捗状況の評価

□A：順調 ■B：やや遅れている □C：遅れている

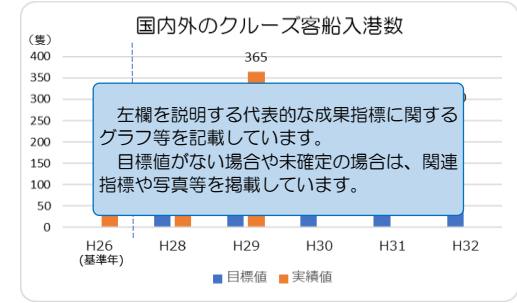
【これまでの成果】

- 平成29年のクルーズ客船入港数は、前年の273隻を上回る365隻となり、過去最高を記録した。
- 国際定期航空路線の利用者数については、長崎～上海線は中国からの訪日旅行の回復等により1月から再開したことで、平成29年度の利用者数は前年度の1.5倍となった。
- アジア諸国における長崎県の認知度については、海外に向けた情報発信を積極的に行った結果、中国及びベトナムのイベントでアンケート調査を実施した。
- 日中韓3か国交流事業数については、青少年交流や交流演奏会、サッカー交流などの事業を推進し、目標を達成した。
- 帰国後の元留学生等交流人数については、帰国留学生等のネットワークである、中国長崎同郷会が活躍している。
- 県産品の輸出額については、海外での長崎フェアの開催等による県産品のPRや県内商社への港、台湾への陶磁器、加工食品等の輸出が大幅に増加し、輸出額は前年度比65%増となった。
- 特定複合観光施設(1R)については、本県への1R導入にかかわる基本的な考え方、方向性からのアイデア募集を行うとともに、県民説明会等の広報活動、経済界との共同での要望活動等も実施している。

【進捗状況に課題がみられる分野】

- 国際定期航空路線の利用者数については、平成29年度は実績値は前年度の1.5倍となったものの、他空港との競合関係などの要因により目標値の61%に留まっている。
- 県産品の輸出については、百貨店や飲食店での県産品フェアの開催により、そうめんや陶磁器など商品定番化が図られたものもあり一定の効果があったものの、取扱品目数は限られている状況である。

数値目標の進捗状況をもとにその達成度に至った要因・原因等を分析・検証した結果を記載することとしています。



3 施策の成果指標の進捗状況

指標	基準年	H28	H29	H30	H31	H32	最終目標(年度)	進捗状況の分析
国内外のクルーズ客船入港数	目標値①	221隻	234隻	246隻	258隻	270隻	270隻(H32年)	平成29年の入港実績は、長崎港267隻、佐世保港84隻、離島港等14隻の365隻。中国発着クルーズの寄港数が増加しており、平成28年の213回(全体の78%)に対して、平成29年には全体寄港数の8割を超える299回に達している。
	実績値②	92隻(H26年)	273隻	365隻			進捗状況	
	②/①	123%	155%				順調	
国際定期航空路線の利用者数	目標値①	115千人(H32年度)					115千人(H32年度)	各年度の目標に対する実績の進捗度を記載しています。但し、例外として「累計で表す指標」、「減少させることを目標とする指標」などの一部の指標については、基準年との比較等により進捗度を計算しています。また、進捗度がマイナスになるものは一律「0%」と表記し、「…以上」「…以下」といった目標値に対する達成度は、目標を達成できていれば一律「100%」と記載しています。
	実績値②						進捗状況	
	②/①						遅れ	

数値目標の動向について「達成」「順調」「やや遅れ」「遅れ」「一」の5項目いずれかを記入しています。<事業群評価と共通>

- 「達成」・・・最終目標年度の目標値を達成した。(累計ベースの目標を設定していて、実績が極めて好調な場合や目標の最終年度が既に到来した場合など)
- 「順調」・・・平成29年度の目標を達成した
- 「やや遅れ」・・・平成29年度の目標値は達成できなかったが、基準値からの改善はみられる
- 「遅れ」・・・平成29年度の目標値を達成できず、基準値の数値と比べても改善がみられない(実績が基準値から下回っている、または29年度目標値に対する実績値が70%未満の場合)

※基準値の設定がなく、今回初めて実績が出る場合などは「一」としています。

## 施策評価調書の見方

### 4 新たな課題や社会情勢の変化等

- クルーズ客船については、長崎港、佐世保港、離島港等で入港状況等が異なっており、港の実状に応じた取組が必要。
- 国際航空路線については、国際航空路線の利用者のうち、FITが占める割合が増えつつあることから、旅まえ、旅なか（着地）におけるきめ細かな本県の観光情報を発信する必要がある。また、インバウンド客は広域に周遊するのが実態であることを踏まえ、九州内の他空港と連携した取組を推進する。
- 県産品の輸出については、今後きや市場の動向などを踏まえ、さら効果的に海外における本県の知名度を高める取組を推進する。
- 特定複合観光施設（IR）については、7月にIR整備法が成立し、整備が本格化する中、平成30年度の実績を踏まえ、今後の取組の方向性を示すものとして以下のような事項を記載しています。

以下のような事項を記載しています。

- 総合計画策定以降、新たに発生した課題・社会情勢の変化
- 総合計画を推進するにあたって課題となっている事象等
- 県政世論調査・審議会等における意見等・個別アンケート等の実施結果

### 5 課題を踏まえた今後の対応方針

- クルーズ客船については、離島港等への欧米小型船の誘致活動を強化するとともに、増加したクルーズ船による経済的な効果を高める取組を推進する。
- 国際航空路線については、SNSや観光情報発信を強化するとともに、九州内他空港と連携した取組を推進する。
- 県産品の輸出については、今後きや市場の動向などを踏まえ、さら効果的に海外における本県の知名度を高める取組を推進する。
- 特定複合観光施設（IR）については、7月にIR整備法が成立し、整備が本格化する中、平成30年度の実績を踏まえ、今後の取組の方向性を示すものとして以下のような事項を記載しています。

今後の施策の方向性を示すものとして以下のような事項を記載しています。

- 政策横断プロジェクト内で進捗が遅れている取組への対策
- 「4 新たな課題や社会情勢の変化等」で記載した新たな変化や課題、県民の声を受けての取組の方向性、
- 伸びている成果をさらに伸ばすための取組

### 6 施策を推進する事業群の状況

事業群①「経済成長著しいアジア諸国の活力を取り込むための取組」	事業群評価調書1-(3)-①③ 参照
事業群②「海外需要を取り込むための県産品輸出と誘客の取組」	事業群評価調書1-(3)-② 参照
事業群③「日中韓トライアングル構想の推進」	事業群評価調書1-(3)-①③ 参照
事業群④「LCC等国際航空路線の強化と長崎空港の活性化」	事業群評価調書1-(1)-④、1-(3)-④ 参照
事業群⑤「統合型リゾート(IR)の導入」	事業群評価調書1-(3)-⑤ 参照
事業群⑥「国際交流機能の充実・強化」	事業群評価調書1-(3)-⑥ 参照

施策を構成する事業群の進捗状況、事務事業の取組実績、平成31年度実施に向けた方向性については、施策評価と同時に公表される「事業群評価調書（平成30年度実施）」に記載しています。